

令和5年度～令和6年度

地域と連携した ふるさとキャリア教育推進校 事業の取組 (鳥取市立青谷中学校)

鳥取県教育委員会

「ふるさとキャリア教育」の推進

教育を通して地域のミリョクを学ぶ

自らの生き方・あり方について考える

ふるさと教育

+

キャリア教育

ふるさとキャリア教育

鳥取県に誇りと愛着を持ち、自分らしい生き方を実現するとともに、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材を育成する

ふるさと鳥取で学ぶ



めざす子ども像



「人」「物」「仕事」を系統的につなぐふるさとキャリア教育

- ・既存の教科・内容を地域独自の教材へ
- ・ふるさとの環境や安全などの価値について学ぶ
- ・郷土の歴史や先人について学ぶ
- ・その道のプロに学ぶ など

学校と地域が連携したふるさとキャリア教育

- ・コミュニティ・スクールの仕組みを活用
- ・目指す子ども像や目標・ビジョンを共有
- ・自校のふるさとキャリア教育について学校運営協議会で熟議 など

地域と連携したふるさととキャリア教育推進校事業（令和5年度～6年度）

県内の小・中・義務教育学校から、地域と連携したふるさととキャリア教育の推進を図る学校（教育課程特例校）を指定し、その取組内容を全県に周知することで、各地でのふるさととキャリア教育の充実を図る。

鳥取市立青谷中学校の取組

目的

教育課程特例校として「探究あおや」（青谷町の豊かな地域資源を学ぶ「ふるさと教育」と、そこに関わるさまざまな方々の学びを通して自己の生き方を見つめる「キャリア教育」を融合させた新教科）を新設した。この教科を本校における社会に開かれた教育課程の中核を担う学習として位置付けるとともに、鳥取県が掲げる「ふるさととキャリア教育」の推進をしていくことを目的としている。

探究あおや

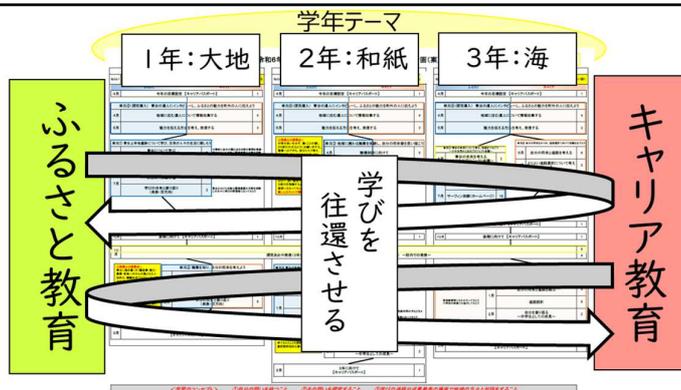
青谷町の豊かな地域資源を学ぶ「ふるさと教育」と、そこに関わるさまざまな方々の学びを通して自己の生き方を見つめる「キャリア教育」を融合させた独自の教科

【目標】

ふるさと青谷の自然、文化、歴史について、様々な人とのつながりの中で探究的に学ぶことを通して、ふるさとを思う力や課題を解決し未来を切り拓く力を養い、主体的に自己の生き方を考える生徒を育成する。

つけたい力

①ふるさとを思う力 ②表現する力 ③未来を切り拓く力



取組の様子（一例）



1年 青谷上寺地遺跡の発掘体験



2年 青谷因州和紙漉き体験



みらあおプロジェクト
（未来の青谷創造プロジェクト）
青谷小6年生、青谷中3年生、地域住民が未来の青谷について考え、行動する取組について話し合い、実際に海岸の清掃活動を行った。



各学年 地域の達人へのインタビュー活動



3年 青谷海岸でサーフィン体験

各学年で体験的学習のテーマ（3年「海」、2年「紙」、1年「大地」）を設定し、サーフィン体験、青谷かみじち史跡公園や青谷の伝統産業である和紙に関わる体験活動を交えながら、探究的な学びを行った。令和5年度は、各学年の探究的な学びの過程の中で地元の方を中心としたゲストティーチャーを迎え、生き方や働くことの意義、やりがい等についてのたくさんのロールモデルに触れさせることで、生徒個々のキャリアデザインの形成に役立てる取組を行った。令和6年度は、「青谷の魅力を発信する」ことをテーマに全学年共通の取組を設定し、年度当初にインタビューの仕方についての講演を聞いた後、青谷の達人へのインタビューを行った。特に2年生は、インタビューと和紙漉き体験を上手く関連付け、和紙を生かした製品を考え提案していくという探究的な学びにつながる取組となった。

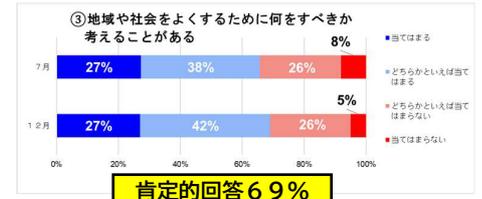
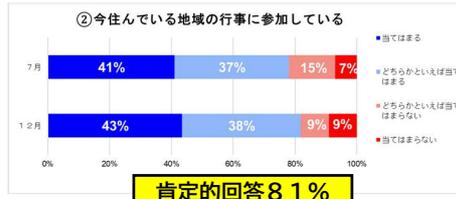
また、青谷小6年生、青谷中3年生、地域住民が未来の青谷について考える「みらあおプロジェクト」を実施し、青谷の魅力の1つである青谷の海を守るために海岸清掃を行い、綺麗になった海をPRしていくことで地域一丸となってふるさと青谷に貢献する機会となった。

成果

【成果指標（取組指標）】学校評価アンケートおよび教科アンケート（探究あおや）についての以下の項目。

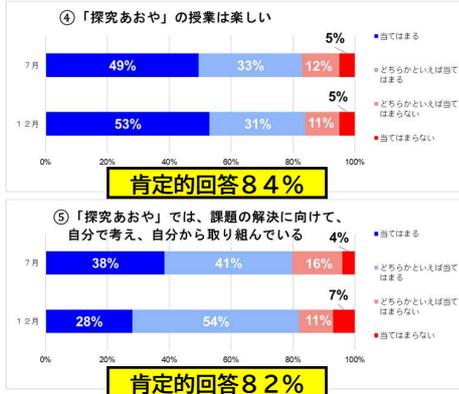
- ・将来の夢や希望を持っている（肯定的回答70%以上）
- ・今住んでいる地域の行事に参加している（肯定的回答70%以上）
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（肯定的回答70%以上）
- ・「探究あおや」の授業は楽しい（肯定的回答80%以上）
- ・「探究あおや」では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる（肯定的回答80%以上）

【令和6年度生徒アンケート結果】



生徒アンケートの結果から、「将来の夢や希望を持っている」と肯定的な回答をした生徒の割合は増加傾向にある。特に「当てはまらない」の回答が減少しており、前向きな生徒が増えている。これは地域の方をはじめとする多くの人との出会いの中で、自分自身の生き方を考えるなどキャリア観に関わる時間を設定した成果の一つだと考える。

また、「今住んでいる地域の行事に参加している」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」生徒の割合は増加している。これは「みらあおプロジェクト」など、自分たちで地域をよくする方法を考えて実行した成果と考える。



「探究あおや」の授業は楽しいと感じている生徒の割合は増加している。また、「探究あおや」では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒の割合も増加している。「探究あおや」の学習で、地域資源を活用しながら探究課題の解決に向けて、主体的に取り組むことで、地域の人やもの、ことに直接触れ、自分が住む地域についての新たな発見があったり、たくさんの人のつながりを感じたりすることで、学びの楽しさをより感じる事ができたのではないかと考える。

課題

- ・探究的な学びの必要性や有用性を生徒、教員ともに感じられるような課題設定や体験活動等の工夫をする。
- ・小学校から中学校までの9年間のカリキュラムを意識した学習課程の見直しをする。
- ・キャリア・パスポート等を活用した学びの積み上げを意識した体系的なカリキュラム、つきたい力、目指す姿等を小中学校の教職員で共通理解する。

今後の取組

- ・地域貢献は生徒たちの達成感につながるだけでなく、探究的な学びの意味付けや実生活で生きる力につながるため、各学年の探究テーマを地域貢献の視点で再設定し、地域の方との関わりや対話を増やし、より深い学びにつなげる。
- ・探究テーマの設定に向けて、職員研修会等で議論し意見を集約したり、学校運営協議会や青谷町総合支所の方に協力を仰いだりするなど、今以上に地域とのつながりを大切にした「探究あおや」にしていく。
- ・ふるさとキャリア教育を推進するための探究的な学びを授業改善や学力向上につなげていくために、小学校と中学校と地域が育成する青谷町の子どもたちの姿を話し合い、共通して使える指標（つきたい力や目指す姿など）を設定する。
- ・「探究あおや」だけではなく、教科等横断的かつ地域が一体となって生徒たちの成長を支える仕掛けを行う。

